

令和7年度 校内研究・研修計画

1 研究主題

自分の考えをもち、進んで伝え合う児童の育成

2 主題設定の理由

(1) 学校教育目標から

未来に夢をもち、たくましく生きる児童の育成
【チャレンジ!】
～共に進もう～

新しい時代を担う子供たちが、これからの社会の中で力強く生きていくためには、人生を豊かにする知識や教養、技術など幅広い柔軟な学力を身に付けるとともに、これらを活用して課題を解決する思考力、判断力、表現力を育むことが重要である。学ぶ楽しさを実感しながら、生き生きとした学びの中で、これらの力を獲得することで、子ども達の意欲が高まると考えている。そして、様々な活動へ積極的に取り組むことで、一人一人の児童の自己肯定感を高め、人間性豊かで、社会の変化に主体的に対応できる、心身ともにたくましい児童の育成を目指していきたい。

【めざす児童像】

- ・進んでまなぶ子（考えを伝えようとして伝える）
- ・思いやりのある やさしい子（温かい心）
- ・たくましい子（元気いっぱい）

(2) 社会的状況

21世紀は知識基盤社会であり、定型的な仕事は今後ますます機械化・自動化が進む一方で、課題を見いだして解決したり、新たな価値を生み出したりする力がより一層求められるようになると予測されている。

PISAやTIMSSなど国際学力調査で日本は上位に位置し、全国学力・学習状況調査では、学力の底上げが見られる一方で、記述式問題では依然として無解答が多く、学んだ知識を活用する力、自分の考えを表現し、伝える力には課題がある。また、「自分の判断や行動がよりよい社会づくりにつながる」という意識が、国際的に見て相対的に低いことが明らかになっている。

そこで、新学習指導要領では、子供たちが未来社会を切り開くための資質・能力を一層確実に育成することを目指している。「社会に関かれた教育課程」を重視し、社会と共有し、連携しながら「生きる力」を具体化し、教育課程全体を通して育成する。その資質・能力を各教科等で、「何を理解しているか、何ができるか（知識・技能の習得）」、「理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等の育成）」、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性等）の涵養の三つの柱に整理されている。

また、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが示されている。学習を見通し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかを考え、実現を図っていく。深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要である。「見方・考え方」とは、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。児童が学習や人生において「見方・考え方」を自由に働かせることができるようにすることが大切である。

上記のようなことの実現のためには、学校全体として、児童や地域の実態を適切に把握し、教育内容や時間の配分、必要な人的・物的体制の確保、教育課程の実施状況に基づく改善などを通して、教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントに努めることが求められている。

（３）児童の実態より

本校の児童は、明るく素直で、指示されたことに対しては最後まで取り組もうとする。以前は、自らの意思や判断をもって、具体的に動くことに躊躇する様子も見られ、学習に対して受け身の姿勢であった。しかし、一昨年度からの学校目標「チャレンジ！」が児童の心に浸透し、果敢に課題に向き合うようになってきた。また、「考えを伝えようとして伝える」を学習の合い言葉として、分からないときには進んで友達に相談し、何とかして課題を解決していこうという気持ちを高めていけるよう、全学級で取り組んできた。その結果、個々の学習にとどまらず、学級みんなで学び合う様子が見られ、学習意欲への向上が見られるようになった。

与えられた課題に取り組むことは、新学習指導要領で提唱されている「主体的」な学びとは言えない。主体的に課題をとらえ、課題解決に向けての方法を精選し、自分の考えをもつことが、児童が大人になったときに、「生き抜く力」につながることを考える。

得た知識や技能をもとに、思考し判断し、自分の考えを表現する力を付けていく授業を展開できるようにしていきたい。

令和４年度から、すべての学習の基礎となる国語科の研究に取り組んでいる。いずれの教科においても、読む力の向上が求められる。国語力の育成を直接担うのは国語科の役割である。そのため、国語科で国語力の基礎を確実に身に付けさせて、他教科でも応用できるようにすることが大切であると考え。言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成できるような授業改善を行っていきたい。

３ 研究教科について

国語科

４ 研究主題について

自分の考えをもちとは、

- ・能力に関係なく、ともに学びに向かう姿勢をもつこと。
- ・課題に対し、既習や生活体験から自分の考えを構築すること。
- ・国語科では、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ自分の考えを明確にしながら読むこと。

伝え合うとは、

- ・互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりすること。

5 研究主題に迫る手立て

○国語科 （※読むこと）

＜めざす児童像＞

- ①言葉の特徴や使い方を理解し、それを適切に使うことができる子
- ②思いや考えを伝え合い、言葉を手がかりとしながら考えることができる子
- ③言葉がもつよさを認識し、国語を向上させていこうとする子

①フレームリーディングの3ステップで指導計画を立てる。文章の姿の
とらえ方)

＜ステップ1 俯瞰＞「文章の姿」をとらえる。

A 構造と内容の把握

○文章がどのような**構造**になっているか、どのような**内容**が書かれているかを把握する。

- 1 説明的な文章＝文章の構造を大づかみに捉える。
低学年…時間的な順序や事柄の順序を考えながら内容の大体を捉える。
中学年…段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係を捉える。
高学年…事実と感想、意見などとの関係を押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する。
- 2 文学的な文章＝「A→事件→A'」という登場人物の心情の変化を捉える。
低学年…場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。
中学年…登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える。
高学年…登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える。

＜手立て 例＞

- ・挿絵の活用
- ・全文提示

＜ステップ2 分析＞

B 精査・解釈

○文章の内容や形式に着目して読み、**目的に応じて**必要な情報を見つけることや、書かれていること、あるいはかかれていないことについて、具体的に想像する。

※目的に応じて→必ずしも段落や場面ごとに順番に読むわけではない。

- 1 説明的な文章
低学年…文章の中の重要な語や文を見付ける。
中学年…目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。
高学年…目的に応じて、必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりする。
- 2 文学的な文章
低学年…場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。
中学年…登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり

と結びつけて具体的に想像する。

高学年…人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする。

<手立て>

計画している指導事項のあった言語活動を通して、精査・解釈する。

<ステップ3 再構築>

C 考えの形成

○文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成する。理解したことに基づいて、自分の既存の知識や様々な体験と結びつけて感想をもったり考えをまとめたりしていく。

低学年…文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと

中学年…文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと

高学年…文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること

<手立て>

計画している指導事項のあった言語活動を通して、考えを形成する。

②つけたい力に合わせた言語活動を設定する。

○様々な言語活動を通して、言葉による見方・考え方を働かせ、国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付ける。

例)

1 説明的な文章

低学年…わかったことや考えたことを述べる活動

中学年…文章の一部を引用して、わかったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動

高学年…文章を比較するなどして読み、わかったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動

2 文学的な文章

低学年…内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動

中学年…内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動

高学年…内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動

3 読書

低学年…本を読み、分かったことなどを証明する活動

中学年…本から情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動

高学年…複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動

★様々な言語活動例（相手意識をもつ）

紙芝居、本、パンフレット、リーフレット、推薦文、劇、新聞、タブレットブックトークなど、つけたい力に合う活動を考える。

③読書活動推進補助教員と連携した、効果的な読書活動を計画する。

○指導事項に合わせた並行読書を設定する。

○読書活動推進補助教員と T・T を組んで授業を行う。

6 研究の方法について

- ・国語科理論研修
- ・校内国語授業研究会（授業研3回 7／3、10／23、12／2）
- ・特別支援教育授業研修会1回 講師：市指導主事
- ・上学年と下学年に分かれて、指導案検討や研究協議をする。（詳しい割り振りは後日）
- ・指導案検討（2回）の前に単元構想についての研修をする。
- ・国語科の研修は、市教研国語部会と合同開催。

7 日程について

月	研修日	研 修 内 容	備考
4	1日 (火)	モラールアップ研修①	24日(木) 授業参観、保護者会
	2日 (水)	モラールアップ研修②	
	10日 (木)	研修日（アレルギー対応、アクションカード研修、学力向上のための共通理解事項、ICT 関係）	
	25日 (金)	研修日（授業改善について）	
5	8日 (木)	研修日（研究内容、指導案の形式確認、授業者＆単元決定）	21日(水) 三部会陸上大会 予備日22日、23日 12日(月) 学校支援アドバイザー来校 29日1、2年校外学習
	12日 (月)	学校支援アドバイザー来校	
	15日 (木)	研修日（第1回国語科授業研修会の単元構想確認）	
	22日 (木)	研修日（ICT）	
6	5日 (木)	プール前心肺蘇生法研修会 講師 白井消防署	10、11日 自然教室 25日5、6年校外学習
	12日 (木)	研修日（国語科指導案検討1回目）	
	19日 (木)	研修日（国語科指導案検討2回目）	
7	3日 (木)	第1回国語科授業研修会（3年、5年）	10日 指導室訪問 16、17、18日個別面談 18日 夏休みを迎える会 日 出勤日
	10日 (金)	研修日（第2回国語科授業研修会の単元構想確認）	
	日 ()	モラールアップ研修③	

	日 ()	アレルギー対応研修	
9	日 ()	モラールアップ研修⑤	1日 夏休み明けの会 30日 前期終業式
	4日 (木)	研修日（第2回校内研の指導案検討1回目）	*田中聡先生来校 ？
10	2 (木)	研修日（第2回校内研の指導案検討2回目）	11日（土）運動会 22日3、4年校外学習
	16日 (木)	研修日（第3回国語科授業研修会の単元構想）	29、30日 修学旅行
	23日 (木)	第2回国語科授業研修会（1年、4年）	
11	6日 (木)	研修日（第3回の指導案検討1回目）	5日 白井市音楽発表会 12日（水）音楽集会、
	13日 (木)	研修日（第3回の指導案検討2回目）	90周年記念行事、（敬老会）
12	2日 (火)	第3回国語科授業研修会（2年、6年）	5日授業参観 17、18日希望個別面談
	11日 (木)	研修日（国語科について、成果と課題）☆市教研	23日 冬休みを迎える会
	19日 (金)	モラールアップ研修	
1	8日 (木)	研修日（特別支援学級指導案検討1回目）	7日 新年を迎える会 23日ザ・白二祭
	15日 (木)	研修日（特別支援学級指導案検討2回目）	
	29日 (木)	特別支援教育授業研修会	
2	5日 (木)	研修日（今年度の成果と課題 来年度へ向けて）	26日6年生を送る会 保護者会
	20日 (金)	研究推進委員会（来年度の研究・研修の方向性）	
3	日 ()	モラールアップ研修	17日卒業式

8 授業改善

なぜ、授業改善をしなくてはならないのか。



子どもたちが大人になったときの姿を見据える。
どのような人間にする必要があるのか。

①Why（何のために）

②How（どうするのか）

③What（そのために何をするのか）

①Why（何のために）

これからの時代は、今の状況を考えて施策を練ることができる人になる必要がある。

具体的には、

- ・自分で考えて行動できる人
- ・人に流されて行動する受け身の人ではなく、様々な情報からよりよいと思うものを選択する人
- ・困ったときにSOSが出せる人

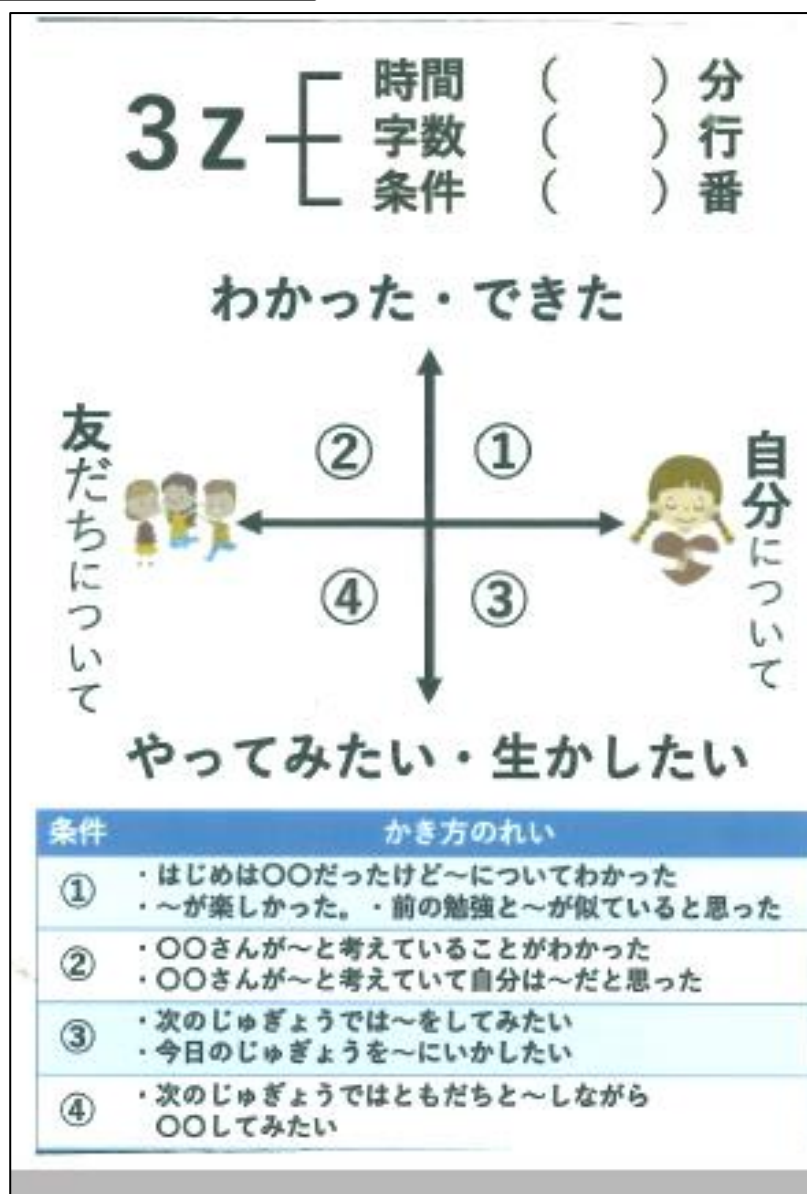
そのような人間にするために、どのような授業をしていく必要があるのか。

- ①子どもたち自身が課題意識（今日の授業で解決する課題、付ける力）をもち、解決したいという気持ちをもって意欲的に学ぶ授業
- ②わからない、できないときには、友達に相談したり、自分の考えがもてたときには、他の考えはないかという気持ちをもち、友達に尋ねたり話し合ったりする授業
- ③様々な情報を比べて考え、友達の考えを聞いたり伝えたりしながらよりよいものを考え、自分なりの考えをもてる授業
- ④授業の最後に、今日の授業で解決する課題、付ける力が身に付いたか（①）、自分の学び方はどうだったか（②③）を振り返り、それをこれからの学習につなげることができる授業

☆二小で頑張っていきたいこと

- ①解決の見通しをもつ時間を大切にし、自力解決に進めるようにする。（支援員との役割分担を明確にする。）
- ②学習の振り返りをし、今後の学習につなげられるようにする。

学習の振り返りについて



子どもたちは、まずは、定型文で書いていくことで、どのようなことを書いていくのかを、学んでいくことができる。そして、自分なりの書き方ができるようになることを目指す。

「今日は、①の書き方で書いてみよう。」と、ひと通り練習する。
 また、よい振り返りを紹介していく。